

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31209	日本語表現法 Study of Japanese Linguistic Expressions	河合 龍二			1	選択	1・2後期

科目の概要

同音異義語・同訓異字語・ことわざ・慣用句・敬語などの日本語の基本的な知識を修得するとともに、原稿用紙の使い方・手紙文の書き方・小論文・自己アピール文などの作成方法並びに音声表現のしかたを学ぶ。また、実践的課題とグループワークに取り組むことによって、正しい日本語表現力とコミュニケーション能力を身に付ける。（ディプロマ・ポリシー②③④⑥）

学修内容	到達目標
① 漢字・慣用句・敬語等を学ぶ。 ② 原稿用紙に自分の考えをまとめ、発表する。 ③ 文章を読解し、要約方法と課題解決策を考える。 ④ グループでコミュニケーションをとり、発表する。 ⑤ 全体の中で、堂々と自らの考えを表現する。	① 漢字・文法・敬語・語彙の小テストで8割正解できる。（ディプロマ・ポリシー②③） ② 要求字数の9割以上で文章を作成できる。（ディプロマ・ポリシー②③） ③ 課題を発見し、その解決方法を示すことができる。（ディプロマ・ポリシー②③） ④ 仲間と対話しつつ、よい点を評価し、考えを深めることができる。（ディプロマ・ポリシー④⑥） ⑤ 相手に伝わるように適切な言葉を選び、音声表現できる。（ディプロマ・ポリシー④⑥）

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	小論文演習・グループワーク・スピーチ等に、積極的に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	小テストの予習・復習、授業での課題への取り組みを確実に進めていくことができる。
考え抜く力	課題発見力	文章や図表から、それぞれの課題が何であるかを発見し、確認・把握することができる。
	計画力	
	創造力	一般的・常識的見解を超えて、表現の工夫をして、独自の考えを発表できる。
チームで働く力	発信力	読解してまとめた内容やグループワークの成果を、ポイントが伝わるように発表することができる。
	傾聴力	教員の講義の重点、他の学生の発表の要点、グループ内の発言の要点を的確につかみ、箇条書きでポイントを記述することができる。また、他の発表の長所を見抜き、的確な評価ができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：毎回、教員の作成したプリントで実施する。
参考文献：講義中に随時紹介する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：なし
資格との関連：なし

学修上の助言	受講生とのルール
「読む、書く、話す、聞く」の4技能をバランスよく鍛える。毎回、新聞記事を含めさまざまな文章を用意するので、配付されるプリントを熟読し、授業内容を理解するよう心がける。社会人として必要な日本語の知識を習得するため、適宜小テスト実施するので真摯に取り組むこと。	主体的に考え、課題に積極的に取り組み、表現力の向上に努めること。多様なものの見方・考え方ができるようになってほしい。グループワークでは「お手紙まわし」「ボキャブラリーシート」等さまざまなしなかけを試すので、積極的に取り組もう。配付プリントや振り返りシートは、ポートフォリオとして各自保管しておくこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標			各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	50	①	✓		漢字・語彙・文章表現に誤りがない。 課題となる長文を決められた字数で要約できる。 文章を読解して自らの課題を見付け、思考の整理をして相手に伝わる表現ができる。 敬語の種類・適切な使用ができる。 課題解決の問題により、pisa型学力を身に付けることができる。
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
	平常評価	小テスト	20	①	✓		授業の初めに実施する文章表現（語彙・漢字・文法・敬語等）の小テストの得点を評価に加える。
				②			
				③			
				④			
				⑤			
		レポート	10	①			振り返りシートに、何を学んで今の自分に何が足りないかを記述する。それを蓄積し、常に自らの学修を調整している。
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	10	①	✓		ループリックに照らし、相手に伝わる音声表現ができる。 一文が簡潔で分かりやすい。 自らの独自の観点が示され、内容が優れている。 内容が充実してまとまりがあり、声がよく届き、分かりやすい発表である。 他の発表の長所を簡条書きでまとめて評価し、フィードバックする。その過程で、pisa型学力を身に付けることができる。
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		（主体性）小論文・作文演習などに、積極的に取り組むことができる。 （実行力）目標への取り組みを確実に進めていくことができる。 （課題発見力）文章・図表から課題を発見し、解決策を考察する。 （創造力）文章・図表を踏まえて、独自の解決策を提案できる。 （発信力）聞き手に分かりやすく、自らの考えを発表できる。 （傾聴力）他者の話を聞き、課題を考察し理解を深めることができる。 （規律性）遅刻、無断欠席など学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。	
			②	✓			
			③	✓			
			④	✓			
			⑤	✓			
総合評価割合			100				

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
Sは、作文・議論・知識などが高度な内容である。具体的には、文章表現において、誤字・脱字がなく、要求字数の9割以上で要約、課題の指摘、意見表明ができる文章を作成し、内容も的確である。演習・グループ学習とも積極的に、自己主張のみでなく、他者を配慮した議論が進められる。聞きやすく、説得力のある表現ができる。敬語の種類や漢字・慣用句などの語彙を9割以上マスターできている。試験・小テストの正解率が9割以上である。 Aは、Sとほぼ同様であるが、敬語の種類や漢字・慣用句などの語彙を8割以上マスターできている。・試験・小テストの正解率が8割以上である。	Bは、作文・議論・知識などがまずまずの内容である。具体的には、文章表現において、誤字・脱字が2か所以内にとどまり、要求字数の8割以上で要約、課題の指摘、意見表明ができる文章を作成し、ほぼ内容の過ちはない。演習・グループ学習ともよく加わり、進行に貢献する役割を果たすことができる。聞きやすく、ほぼ内容が分かる表現ができる。 敬語の種類・語彙を7割以上マスターできている。試験・小テストの正解率が7割以上である。 Cは、Bとほぼ同様であるが、敬語の種類・語彙を6割以上マスターでき、試験・小テストの正解率が6割以上である。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	オリエンテーション 文章表現の基礎として、 原稿用紙の使い方を学ぶ。 小テストの計画・方法を 確認する。 新聞語彙Ⅰ	シラバスと社会人基礎力をは ぐくむ学泉ノートを参照し、 授業ねらいと小テスト、予習 復習について説明する。語彙 力を増やすための工夫につい て考え、演習をする。 PCを用いて調べ学習をする。1 年生は調べた語句を「オリジ ナル辞書」としてPCフォルダ に蓄積しておく。(以下同じ)	語彙力を身に付ける工 夫を提案できる。 新聞を読めるレベルま で、自らを高めようと する意欲をもつことが できる。	(復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	主体性 課題発 見力 傾聴力 規律性
2	新聞語彙Ⅱ 新聞を読み、日常言語 と専門用語について、 理解を深める。	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する。	小テスト「誤りやすい 漢字」の正答率は、6 割以上である。 新聞を読めるレベルま で、自らを高めようと する意欲をもつことが できる。	(予習) 事前配付プリ ントを熟読しておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 傾聴力 規律性
3	新聞語彙Ⅲ 現代に残る古語① 童謡や唱歌、ことわざ や慣用句にある古語を 発見し、理解を深め る。	小テスト・講義・演 習・グループワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する	小テスト「ことわざ、 慣用句」の正答率は、 6割以上である。 古語を通して日本の伝 統文化や感性を知る。	(予習) 事前配付プリ ントを熟読しておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 傾聴力 規律性
4	新聞語彙Ⅳ 現代に残る古語② かるたや百人一首で古 語の響きを知り、理解 を深める。	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する	小テスト「百人一首」 の正答率は、6割以上 である。 古語を通して日本の伝 統文化や感性を知る。	(予習) 事前配付プリ ントを熟読しておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 傾聴力 規律性
5	新聞語彙Ⅴ 現代に残る漢語① ことわざや故事成語に ある漢語を発見し、理 解を深める。	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する。	小テスト「故事成語」 の正答率は、6割以上 である。 漢語を通して日本の伝 統文化や徳性を知る。	(予習) 事前配付プリ ントを熟読しておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 発信力 傾聴力 規律性
6	新聞語彙Ⅵ 現代に残る漢語② 歌謡曲やアニメソング 等にある漢語を発見 し、理解を深める。	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する。	小テスト「四字熟語」 の正答率は、6割以上 である。 漢語を通して日本の伝 統文化や徳性を知る。	(予習) 事前配付プリ ントを熟読しておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 傾聴力 規律性
7	文章表現① 手紙の書き方 手紙の形式を中心に、 伝え方の工夫を学ぶ。	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する。	小テスト「難読語1」 の正答率は、6割以上 である。	(予習) 事前配付プリ ントを熟読しておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	実行力 発信力 傾聴力 規律性
8	文章表現② エッセイ、韻文の書き 方 創作し、発表する。	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する。	小テスト「難読語2」 の正答率は、6割以上 である。	(予習) 事前配付プリ ントを熟読しておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	文章表現③ 小論文の書き方 根拠を明確にして、論 理的文章を書く。グ ループワークで意見交 換しながら課題を確認 し、ブラッシュアップ をする。 紙上対話Ⅰ	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する。 紙上対話(お手紙まわ し)で即座の言語化、表 現力と読解力を磨く。	小テスト「同音異義 語」の正答率は、6割 以上である。	(予習) 紙上対話(お 手紙まわし)の独自 テーマを決めておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	主体性 実行力 創造力 傾聴力 規律性
10	文章表現④ 批評(書評)の書き方 クリティカル・シンキ ングの発想で批評をする。グループワークで 意見交換しながら課題 を確認し、ブラッシュ アップをする。 紙上対話Ⅱ	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する。 紙上対話(お手紙まわ し)で即座の言語化、表 現力と読解力を磨く。	小テスト「同訓異字 語」の正答率は、6割 以上である。	(予習) 紙上対話(お 手紙まわし)の独自 テーマを決めておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 傾聴力 規律性
11	音声表現① 朗読・アナウンスの基 本を身に付ける。 発音、発声、イント ネーション、アクセン ト等。 紙上対話Ⅲ	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する。 紙上対話(お手紙まわ し)で即座の言語化、表 現力と読解力を磨く。	小テスト「敬語1」の 正答率は、6割以上で ある。	(予習) 紙上対話(お 手紙まわし)の独自 テーマを決めておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	主体性 実行力 発信力 傾聴力 規律性
12	音声表現② 朗読・アナウンスの表 現方法を身に付ける。 ポーズ、卓立、無声化 等。 紙上対話Ⅳ	講義・演習・グループ ワーク 思考ツールを用いて、 ものの見方・考え方を 整理する。 紙上対話(お手紙まわ し)で即座の言語化、表 現力と読解力を磨く。	小テスト「敬語2」の 正答率は、6割以上で ある。 朗読又はアナウンスの 実践で、内容が映像と して把握できる。	(予習) 紙上対話(お 手紙まわし)の独自 テーマを決めておく。 (復習) 振り返りシー トを基に、何が分かる ようになったか、何が できるようになったかを 確認する。	90	実行力 発信力 傾聴力 規律性
13	音声表現③ 敬語表現を含め、「自 己有用感」をテーマと した3分スピーチ原稿 を作成する。 紙上対話Ⅴ	個人ワーク 身振り手振り等のノン バーバルな表現も工夫 する。 紙上対話(お手紙まわ し)で即座の言語化、 表現力と読解力を磨 く。	スピーチ原稿を完成で きる。 「SDS」「PRE P」「KPT」等の文 章構成でスピーチ原稿 を完成できる。	(予習) 紙上対話(お 手紙まわし)の独自 テーマを決めておく。 (復習) 3分スピーチ の予行練習をする。	90	主体性 実行力 課題発 見力 創造力 発信力 規律性
14	オンデマンド これまでの学修の振り 返りと、期末試験事前 学習ポイント明示	視聴とレポート提出 レポート内容は、期末 試験に直結する内容と する。	日本語の知識や、論理 的な意見文を中心に、 理解を深めることがで きる。	(復習) 期末試験に向 けた文章表現・敬語表 現・小テストの課題の 総復習をする。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
15	音声表現④ 発表 3分スピーチ 自己の長所を強調し、 自己有用感をもって 堂々と自己PRを作成 する。	一人ずつ、全体に向け てスピーチをする。 聴く側は、長所を評価 して記述する。	ループリックに照ら し、自己評価及び相互 評価が「おおむね満 足」となる。	(予習) スピーチ練習 をしておく。 (復習) 振り返りシー トで、自己評価をす る。また、他のスピー チを聴いた発見をまと める。	90	主体性 働きか け力 課題発 見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力